

病院	A病院	B病院	C病院	D病院	E病院	F病院	G病院
コロナ禍における病棟の子どもや家族や付き添いの状況と変化	病棟の面会は全面的に禁止。保護者の付き添いは1名。食事は院内コンビニ利用。又は家からの持ち込み(病院玄関で預けて、病棟スタッフが取りに来る)。中にはずっと親と会えていない子もいる。プレイルームは少人数で使用可 イベントの時は親も含め10名以内	前回と同様。病棟の面会者は両親のみ1日1時間。外来付き添いは原則1名。プレイルームは人数・利用時間を制限し、予約制で使用。	8/8より県の警戒レベルが最高レベルに引き上げられた。面会は親(親権者)の中から1日1名のみ、途中交代なし、12~20時。病棟付き添いも面会と同様の1名のみで24時間毎の交代は可。外来付き添いは親(親権者)、祖父母、中学生以上の兄弟の中から1日2名まで、交代なし。プレイルーム使用禁止。	8月2日からの緊急事態宣言を受けて、面会者は原則両親で人数は1日1人、時間は12:00~22:00 面会時の院内散歩等は、平日18時以降と休日のみ。きょうだいの面会は原則禁止。外来の付き添い原則1名。院内放送で周知。プレイルームは、人数制限などあり、病棟により異なる。	前回と同様。面会は保護者1名のみ4時間以内。プレイルームは、人数・時間を制限しての利用。外来も付き添いは原則1名。飲食禁止(飲食スペースあり)。職員はワクチン接種後、若干の制限緩和あり。	付添者以外の面会は原則禁止。面会者は原則保護者。面会時間は7:30~19:00の時間帯、1日1回、2時間以内。付添は原則病棟内中心、必要以上に病棟以外に出ないよう依頼する。付添者の交代や院外へ外出は原則控えてもらう プレイルームは密にならないよう保育士が工夫。	面会は保護者1名まで。時間制限はなし。主治医許可児の外泊許可は、毎週→隔週になるなど感染対策を強化。プレイルームは手指消毒・ソーシャルディスタンスを確保し使用可能(コロナ病棟は閉鎖していたが上記規則同様にして使用可能となった)
活動の状況と変化	感染対策を徹底しながら希望者は活動。外来プレイルームとボランティア室内での作業、外来での遊び相手や見守り・一時預かり等を実施夏休み兄弟支援として「工作キット」をプレゼント。7月中旬からワクチン済の方は病棟活動OK、但し1病棟1名しかし、急激な感染者の増加に活動への不安も高まっている。今後の活動については検討が必要	外来での待ち時間対応やきょうだい預かり他院内の活動は2020年4月から休止。屋外の園芸活動は活動継続。ソーイングは、在宅作業で継続しているが7月より限定された縫製作業のみ来院作業が認められた。8月に入り緊急事態宣言が発出されたため、コーディネーターの判断により活動自粛としている。壁面装飾は、作品を預かりCoが貼り替え作業を行っている。七夕時に病棟に250枚の手作り短冊をプレゼント。	警戒レベル4以上ではボランティアが館内に入る条件を「ワクチン接種完了」または「3日以内のPCR検査結果と2週間の行動確認提出」としている。レベル3以下は制限なし。ワクチン接種済の1名が病棟活動を再開、8月末にはもう1名再開予定。患者の話し相手、学習の見守り、絵本の読み聞かせなどを行う。患者と接しない活動も9月にはワクチン接種完了者が増え警戒レベルが高い期間も活動できる見込み。館外で活動する園芸は通常どおり。	縫製と一部外来活動していたが中旬以降中止。病棟のオンラインイベント、お話会のDVD作成、在宅でのきょうだい児へのキット作りは継続しており、病棟入り口など8カ所にキットを置き、月2回更新し70~100個家族が受け取った。オンラインイベントは増えている。7月中旬、総合待合室や通路などの季節飾りを行った。魚で水族館風にしたり、ひまわりなどで通路を飾って皆さんに楽しんでもらっている。案内や花の水やりなどは職員が行っている。	「まん防」「宣言」に関わらず、活動は継続することを決めたので、4~6月は外来1~2名、裁縫・園芸の活動も定期的に行った。ただし、7月以降は感染に加え猛暑もあり自粛される方が増えている。夏休みの外来あそびの日開催は、現在検討中。他のボランティアグループについてもニーズがあり、担当セクションが依頼を検討したが、宣言下の活動依頼は困難と判断、取り下げている。全体的に活動は縮小している。	7月中旬より、コロナワクチン2回摂取後の緑のボランティアのみ活動を再開した。イベントアートに限り、患者さんのいない時間帯に来院してもらい作品を展示してもらっている。	昨年度よりボランティア活動は全面停止中。水槽ボランティアのみ、生き物の生存に関わるため病院の許可を得て活動中。委員会で在宅活動、来院活動の規則を感染対策チームのアドバイスの元に作成したが、コーディネートする保育士のマンパワー不足により活動開始が未定。オンラインでの活動は可能な限り取り入れていき、イベントや学習ボランティアなどは数回実施できた。
ワクチン接種状況	6月に病院の医療者枠でボランティアもワクチン接種をして頂いた。ボランティア登録の半数以上がワクチン済 ワクチン済の方は病棟活動OK ワクチン接種の有無に関わらず外来とボランティア室での作業は可能	ボランティア活動の条件には、コロナワクチン接種の有無は求めている。またコーディネーターは、ボランティアに接種の有無は聞かない。自身の判断と、感染対策で活動に参加していただく。ボランティアへの安全を担保する判断は必要と考えている。	ワクチン接種は各人が地域や職域で受ける。県の警戒レベル4以上では入館条件としてワクチン接種済を求めるが、3以下で制限なし。接種、PCR検査結果、行動確認は本人の申し出を確認し書面の提出までは求めない。接種を希望しないボラは警戒レベル3以下になるまで活動を休止する。	患者家族と接するボランティアは、医療者枠で接種した。基本的には接種の有無は関係なく、活動は可能である。しかし、デルタ株による感染拡大への懸念から、ボランティアの方の安全第一を優先に考え、緊急事態宣言が解除されれば再開は可能。状況次第で再開時期や再開基準は検討課題である。	ワクチン接種は自主性を尊重し、活動参加条件にはしていない。ボランティア側が「ワクチンを打ったので安心」と活動再開する事例が数件あり。今後、病院として「ワクチン接種を活動条件にするか否か」検討したい。	ワクチン接種会場として、ボランティアハウスを使用。病院よりボランティアを優先的に受け付ける案内を郵送。60歳以上の希望者がワクチン接種を受けた。ワクチン接種完了者のみ再開の見込みである。	ボランティアへのワクチン接種は現在活動条件になし。来院活動に必要な条件(2週間熱計表・環境設定・活動人数制限)を確立したが、来院活動開始前に再度感染対策チームと協議は必要。